

SYOHEI ニュース 令和7年6月号

奥州市総合水沢病院の概況

所在地 奥州市水沢大手町3丁目1番地

TEL 0197-25-3833、FAX 0197-25-3832

URL <http://mizhsp-iwate.jp/>

E-mail mizubyou@city.oshu.iwate.jp

診療開始年月日 昭和26年5月28日

標榜科 内科・外科・泌尿器科・整形外科・
神経内科・循環器内科・精神科・麻酔科・
小児科・耳鼻咽喉科

許可病床数 一般 95床 (運用病床)
感染症 4床 総数 99床

看護の体系 急性期一般病棟入院基本料10:1

診療職員数(R7.4.1現在)

職種	正規	正規以外
医師	11	3,758
薬剤師	4	0
看護師	72	13
その他の技術職員	27	19
事務職員	14	19
その他	10	10
総数	138	64,758

主な設備の概要：医科

MRI(1.5テスラ)・マルチスライスCT(320列)・骨塩量測定装置・
心エコー・循環器用デジタルX線装置・自動生化学分析装置・マンモグラフィー(デジタル)



勤務医師 11名

職名	医師名
院長兼健診センター長	遊佐 透
副院長兼診療部長兼泌尿器科長兼薬剤科長	尾形 昌哉
副院長兼整形外科長兼リハビリテーション技術科長	中村 聡
医療技術部長兼内科長兼糖尿病代謝科長	仲地 紀勝
診療部副部長兼外科長兼栄養科長	塚本 信和
耳鼻いんこう科長兼放射線科長	高橋 邦明
小児科長	村上 洋一
精神科長	青木 京子
臨床工学技術科長兼外科医長	村澤 哲也
臨床検査科長兼内科医長	藤巻 大亮
麻酔科医長	吉村 真弓

保健福祉活動

事業所健診、人間ドック、定期健康診断、特定健診(国保)、骨粗鬆症等各種検診、小児生活習慣病予防検診

コロナ禍の記憶 総合水沢病院長 遊佐 透

「あの頃、お父さんは全然、家にいなかったよね。」

最近、子供達にそう言われました。「あの頃」とは、今から4年程前で、COVID-19が岩手県内でも市中感染症として増えていた時期です。当時、土日関係なく発熱外来やコロナワクチン集団接種などに追われていました。

感染者が出ると、その家族や職場の同僚などを濃厚接触者としてPCR検査を行い、感染が確認されると隔離入院させていました。休日でも保健所から緊急検査依頼が入ると、呼び戻されてPCR検体採取に出勤したものでした。

家族も感染のリスクを避けるため、数ヶ月以上にわたって外食を自粛して生活していました。少し流行が落ち着いてきた頃、道の駅に来ていたアイスクリームの移動販売でアイスを買った時、屋外でものを食べるのが実に久しぶりのため「食べていいの?!」と喜ぶ様を見て、子供達にも我慢を強いていた事を不憫に思いました。

先日、厚生労働省から全国の定点医療機関において、5月5日からの1週間のCOVID-19新規感染者数が3604人であり、1医療機関当たり0.94人だったと発表がありました。定点あたり1.0人を下回るのは、2023年5月に「5類」に移行して以降、初めての事だそうです。

このニュースを見て「ようやく、ここまで来たな」と一人で感慨に浸っていた今日この頃でした。

このニュースを見て「ようやく、ここまで来たな」と一人で感慨に浸っていた今日この頃でした。

大谷翔平選手の成績ボード(R7.5.28現在)

打率296㊟ 本塁打20㊟ 打点35㊟ 盗塁11㊟

5月17日は、ロサンゼルス市の「大谷翔平の日」です

『SYOHEIニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和7年5月29日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。 第62号



奥州市HPの中の「奥州市の先人」コーナー。今回は「吉川鉄之助」をご紹介します。

北海道長沼町開拓の父「吉川鉄之助」(1859年～1931年)

吉川鉄之助は、1859年(安政6年)9月、水沢川原小路で生まれた。

父は、水沢の留守家に仕える刀や剣の研ぎ師だった。ところが明治維新で徳川幕府や主家が倒れたので職を失い、農業をするか、まったく別の職に就くか二つの道しか残されていない状況になってしまった。

一家は鉄之助が13歳の時(1871年)に、水沢の約200人の人々と共に、北海道札幌平岸村に移り住んだ。平岸村では、掘立小屋をたてて、共同炊事で始まった開拓だったが、3年間は政府から、米、味噌を与えられ、鍬、鎌かまなどの農具、鍋、釜なども与えられた。

苦労をしながら荒れ地を切り開き、畑には麻や大豆、稲、りんご、かぶ、玉ねぎも栽培され、平岸の農業はだんだんと有名になって行った。鉄之助は成人になるまで父母のもとで手伝いをし、また、札幌農学校(現北海道大学)につとめながら、クラーク博士に学んだりもした。



石碑
(水沢区川原小路にあります。)

1887年(明治20年)、第2の新天地を求め、夕張郡長沼村に家族や仲間とともに移り住み、長沼の開拓が始まった。鉄之助29歳、妻と3人の子供がいた。そのころの長沼村は、川と沼が多く、大木がうっそうと茂る原野で、道路も千歳に行く道しかないほどであった。

心が大らかで、夢を追い、新しいことにチャレンジすることが大好きな鉄之助は、長沼開拓のリーダーとしてがんばり、教習所(今の小学校)や道路、橋の建設、村有財産計画、開拓計画などに取組み、1895年(明治28年)には、長沼町初めての戸長(今の町長)となった。この時、鉄之助37歳、村の戸数は920軒に達していた。鉄之助はその後、旭川、樺太などの開拓にもあたり1931年(昭和6年)73歳でこの世を去る。そして『長沼開拓の祖』として、1937年(昭和12年)長沼町の役場前に胸像が建てられた。

長沼町と水沢の交流は、1961年(昭和36年)に、長沼町の人々が当時の水沢市を訪問したのが始まりです。長沼町の75周年を祝うため、鉄之助について調べにきたのであった。それをきっかけとして交流が続き、1973年(昭和48年)長沼町と水沢市は姉妹都市になりました。

1977年には川原小路に『吉川鉄之助誕生の地』という標示板を設置、その年に長沼中学校の生徒432名が修学旅行で水沢を訪れ、水沢中学校生徒と交流している。

そして、1987年(昭和62年)には、長沼町の百周年を記念し、モニュメント『姉妹』が長沼町と水沢市双方に置かれ、その後も小学生の訪問や物産展での展示・販売など姉妹都市としての相互の交流が続いている。札幌市の南東30キロメートルにある北海道長沼町は、現在道内でも有数の米どころで、『緑豊かな田園文化都市』として発展している。平成25年4月末の人口は9,846人、世帯数は4,868世帯、その基礎を築いたのが奥州市生まれの吉川鉄之助だったのである。



『姉妹』
姉妹都市を記念してつくられたモニュメント(きねんひ)新幹線水沢江刺駅にあります。長沼町の町民会館前にも、同じものがあります。